

北タイにおける住民による森林の自主管理支援事業

“ Project for supporting villager self-management of community forest in Northern Thailand ”

最終報告書

特定非営利活動法人 Link・森と水と人をつなぐ会

コード番号：11-A-224

◆活動の目的

北タイの農村部に住む人々の環境保全や森林資源の管理・活用を実現しようとする活動を支援し、これを通して貧困問題の解消と、持続的な暮らしを実現すること。

◆活動の内容と方法

森林保全活動を行う村人たちの最大の課題は、組織力の脆弱さにあり、本活動の具体的な目的は、この補強を通して森林や水などの地域の自然資源を主体的に保全・活用し、持続的な村おこしを行っていけるようにすることである。活動を行う村人たちと共に、次に記すような情報を収集し、“村の百科事典”という冊子にまとめてより多くの住民との共通認識の形成、問題の共有を図る。これを通して組織の強化、活動の拡大を実現しようとするものである。

以下に活動の内容と方法を合わせて記載する。

- ① 行政村およびコミュニティ林の境界線を示す地図を作成する。そもそもタイの村の大半には村単位の地図がなく、これを得ることは活動をする際の非常に大きな手助けとなる。コミュニティ林の地図は住民が管理（保全と利用）しようとする森の範囲を示すもので、これがあって初めて行政担当部署との交渉が可能になり、ひいては住民自身による主体的な管理が実現する。

これらに関する情報を有する村はごく一部の例外を除いてないのが現状で、すべて Link のスタッフが村のリーダーたちと境界を歩いて GPS(全地球測位システム)で測位する。これを事務所に持ち帰り、陸軍地図局発行の5万分の1地形図や衛星画像を参考にしながら主な地形や主要幹線道路などの情報を入れ、住民が使いやすいように仕上げる。

- ② 歴史情報を集める。森林破壊も貧困化も、近代化の大きな流れの中で、さまざまな要素が絡み合いながら起こっている。これらを、(1)開発による変化、特にインフラの整備や消費財の導入の経緯、(2)住民の主たる生業であり、しばしば負債を生じさせたり環境破壊の原因となったりす農業の変化（商業化）を把握するための、作物名や農薬の導入時期などの情報、(3)住民による森林保全活動を行政にアピールする際にもっとも重要な

“証拠”となる保全活動の記録、(4)村内では見る事のなくなってしまう動植物を最後に見たおおよその年の記録、の 4 点に分けて一覧表にし、自分たちの“来し方”を統合的に理解することを通して“行く末”をより深く考えられるようにする。

情報は、住民に集まってもらい、ワークショップの形で集める。

- ③ 村内でいまでも見られる動植物の情報を集め、一覧にまとめる。これには住民によるそれぞれの利用状況などを記載する欄も設け、住民自身がくらしと森との関係を再認識すると同時に、対外的に、いまでも森と密接に結びついている村のくらしについて理解を深めてもらい、併せてその村(の森)の価値をアピールできるようにする。

情報は、住民に集まってもらい、ワークショップの形で集める。

情報収集は、GPS の測位も情報収集のワークショップも、なるべく多くの村人に参加を呼び掛けて行う。単に情報の収集ということ考えた場合、この方法は活動の非効率さや、得られる情報の不正確さを招く恐れがある。にもかかわらずこの方法を採用するのは、「自分も参加した」という意識を持つことによって、より多くの住民が村やこの活動に対して関心を高め、結束の強化につながることを念頭においているためである。

また、これらのデータは地域の学校における総合学習の時間(いわゆる地元学や環境教育)の教材ともなるように、ひいては次の世代を担う子どもたちの育成に資するように意図されている。製本前には村の子どもたちから村の絵を募集して、表紙や挿絵として途中のページに入れているが、これも子どもたちが気軽に手に取り、関心を持つきっかけにしてほしいとの願いを込めた工夫である。

すべての情報が整えられ、校正・製本を終えた冊子は“完成式”で村人に還元される。当日は村長、助役、開発委員やすべての村人はもちろん、学校長や所轄の森林局や国立公園局、行政区の担当者なども招き、再度冊子作成の主旨説明を行うと同時に、利用方法に関する講習会の機会とする。

データは CD でも村に還元され、今後、村人がデータを増やしたり改訂したりできるように配慮されている。冊子は Link のホームページでも全編公開するほか、国立図書館や複数の大学の図書館にも寄贈されている。将来的にはチェンマイ大学の電子図書としての公開も検討されている。情報の公開も活動開始当初の条件に含まれているので、個人情報などについては慎重に配慮し、校正段階では必ず村長などが目を通すようにしている。

なお、これらの活動を支えるため、スタッフは常に最新の情報に目を配り、勉強会を開き、各地で開催されるワークショップや講習会に参加しているほか、関連団体との交流や情報交換も行っている。

助成期間に参加・実施した主たる催しは以下の通り。

[2012 年]

- ① スタッフ研修 (大阪人権博物館) [4月6日]
- ② スタッフ研修 (釜ヶ崎) [4月9日]
- ③ パソコンを使った地図作成方法に関するスタッフ研修 [8月14日、9月24日]
- ④ バンコクのヤオワラート周辺でスタッフ研修 [8月22、24日]
- ⑥ タイ職安主催、Christian Outreach Centre Foundation 協力の、“外国人労働者、ボランティアを受け入れる NGO のための研修会” に参加 [10月25日]

この他に、スタッフ研修の一環として、“チェンマイ自由学校”と称する公開自主勉強会を実施し、現況の把握や専門知識の習得に努めた。

◆活動の実施経過

村での活動は以下の順で行った。

- ① 活動開始を検討している村でリーダーたちとの打ち合わせ、治安状況の調査、管轄する担当行政部局との話し合いを経て、支援するかを決定する。
- ② 村で GPS を使った地図情報および歴史や生物などの情報を収集して編集し、製本する。
- ③ “完成式”で冊子を村人にわたす際は、村人のほか、行政担当者や校長をはじめとする学校関係者、自治体職員なども招待し、“村の百科事典”の内容や使い方の講習会も兼ねる。以下は現場での主な活動 [事務所ほか、チェンマイ市内での作業は含まない]

[2011 年]

【11 月】

サンカンペン郡オンタイ区で活動継続について検討

【12 月】

オンタイ区で活動継続について検討。候補村で予備調査の実施

[2012 年]

【1 月】

- 10 日 オンタイ自治体のナット技師に新規活動村について相談し、第 2、11 村の村長と会合。両村長とも活動に関心を示すが活動の開始が実現せず
- 11 日 新規活動村についてサンカンペン郡の郡長助役に相談
- 18 日 新規活動村の検討のため、メーワン郡トゥンピー区で調査
- 22 日 メーワン郡トゥンピー区克蘭ドン村のユンユット村長と活動について話し合い
- 24 日 “村の百科辞典”の日本語解説書の作成・完成
- 25 日 クランドン村で住民集会に参加 (活動合意・開始日)
- 27 日 クランドン村の村境を GPS を使って測位
- 31 日 クランドン村で GPS を使った測位と、生物情報に関する情報収集ワークショップを実施

【2 月】

- 2 日 クランドン村で農業情報の収集ワークショップを実施

- 8 日 クランドン村で歴史情報の収集ワークショップを実施
- 9 日 クランドン村の村境を GPS を使って測位
- 9 日 トウンピー区行政区評議会で地図を収集
- 15～19 日 藤田 渡准教授(甲南女子大学)が来訪、打ち合わせと現場視察
- 21 日 クランドン村の“村の百科事典”を印刷屋から受領
- 22 日 メーワン郡トウンピー区トウンパカーヌア村の住民集会に参加(活動合意・開始日)
- 22～23 日 活動終了村における“村の百科事典”の利用状況についてインタビュー
- 25 日 トウンパカーヌア村で GPS を使った測位
- 26 日 ●クランドン村で“村の百科事典”の完成式を実施
- 27 日 トウンピー区の第 5、8 村、OBT 技師に Link の活動を紹介
- 28 日 活動終了村における“村の百科事典”の利用状況についてインタビュー

【3月】

- 2 日 トウンパカーヌア村で生物情報の収集ワークショップを実施
- 3 日 トウンパカーヌア村で歴史情報の収集ワークショップを実施
- 4 日 トウンパカーヌア村で農業情報の収集ワークショップを実施
- 9 日 トウンパカーヌア村のマカップトンルアン寺と学校で情報収集
- 9 日 トウンピー区長と活動について打ち合わせ
- 13 日 トウンパカーヌア村で“村の百科事典”を校正
- 14 日 メーワン郡トウンピー区センカム村で会合。活動合意・開始日
- 16 日 センカム村で村境を GPS を使って測位
- 18 日 センカム村で宅地を GPS を使って測位
- 31 日 センカム村を訪問し、今後の日程について打ち合わせ
- 31 日 ●トウンパカーヌア村で“村の百科事典”の完成式を実施

【4月】

- 3 日 センカム村で歴史情報の収集ワークショップを実施
- 19 日 センカム村で歴史情報の収集ワークショップを実施

【5月】

- 2 日 センカム村とトウンピー区評議会で情報収集
- 15 日 ●センカム村で“村の百科事典”の完成式を実施
- 15 日 トウンピー区リムワン村村長らと会合(活動合意・開始日)
- 23 日 リムワン村で歴史情報の収集ワークショップを実施
- 24 日 リムワン村で村境を GPS を使って測位、情報収集
- 29 日 トウンピー区ノンパカー村、ノンイエン村の両村長と活動について相談
- 29 日 リムワン村で宅地の GPS を使って測位

【6月】

- 1 日 リムワン村で宅地境界の GPS を使った測位と、歴史情報の収集ワークショップを実施

- 6日 チェンマイ県庁にて人口のデータを収集
- 8日 リムワン村で村人に“村の百科事典”の校正を依頼
- 17日 トウンピー区ノンイェン村で打ち合わせ(活動開始で合意)
- 20日 プルック教授に紹介された新規活動候補地のサンパトン郡ナムボールアン区、ドイサケット郡チュンドーイ区、メーリム郡ドンケーオ区を訪問し、Linkの活動紹介および村のデータを収集
- 22日 ノンイェン村での活動に向けて基礎データの収集
- 25日 ノンイェン村で生物情報の収集ワークショップを実施
- 27日 ノンイェン村で村境をGPSを使って測位
- 28日 ノンイェン村で耕地と森林をGPSを使って測位

【7月】

- 5日 チェンマイ大学図書館で、官報に掲載されたメーワン郡の保全林の地図を入手
- 9日 チュンドーイ区の行政区自治体で、自治体長らと今後の活動について打ち合わせ(活動開始で合意)〔第7区は年内、他は2013年2月以降〕
- 10日 ノンイェン村の村長と会合。第6村との村境について検討
- 11日 県の統治管理部で、トウンピー区内の村境について情報収集
- 11日 灌漑局でメーワン川の水利に関するデータ(地図など)を収集
- 12日 ●リムワン村で“村の百科事典”の完成式を実施
- 14日 ノンイェン村でGPSを使って測位
- 15日 ノンイェン村で村人が測位したGPSデータを確認
- 31日 チュンドーイ区第7村のロンキーレック小中学校のソンブン校長と環境教育担当のナンティヤー教諭と活動について打ち合わせ。協力で合意

【8月】

- 17日 ノンイェン村で歴史情報の収集ワークショップを実施
- 20日 ノンイェン村で生物情報の収集ワークショップを実施
- 21日 ノンイェン村で生物と農業情報の収集ワークショップを実施
- 25日 ノンイェン村で歴史情報の収集ワークショップを実施
- 31日 チュンドーイ行政区自治体長と合同活動実施合意書に調印

【9月】

- 27日 県灌漑計画事務所でワン川の灌漑のデータを収集
- 28日 ●ノンイェン村で“村の百科事典”の完成式を実施

【10月】

トウンピー区ノンパカー村での活動開始準備

【12月】 28日 ●ノンパカー村で“村の百科事典”の完成式を実施)

◆活動の成果

本年度はチェンマイ県内の農村で、森林のない平地村でも上流にある水源林との関係を意識することによって他村との連携をしやすくしたり、そこから得られる河川や灌漑の水資源の管理に住民たち自身に関わることができるよう、これまでの村より一つ上の行政単位である「区」をベースにした活動事例の創出を図った。活動は同県メーワン郡トゥンピー区にある6村で行い、助成期間内に5つの村で活動を終えることができた。

この内、森林を有する村ではこれまで同様、村の共有林の範囲を明確にし、さらに保護林と利用林も図示できたことによって、より具体的な管理が行えるようになった。

また、各村内の河川や灌漑水路を区全体の水系の中に位置づけた地図を作成し、水資源に関する周辺村との関わりが明確に分かるようになった。区全体の河川図を作成することによって、これまで専ら村単位で発想することの多かった治水・利水について、より広範な検討の材料を得ることができるようになった。途中からはこうした業績が認められて、灌漑局や郡庁からデータの開示を得られるようになり、精度を大幅に向上させられた。

また、平地村は山村に比べて一般に面積が小さい割には人口が多いため、水質などの汚染が進んでいるが、収録した歴史と生物の情報は、村人に環境の変化を振り返る機会を提供し、今後の環境保全活動を計画する際の有意な材料となった。

これらのデータの利用はその多くを今後の村人の活動に追っているが、住民会議や外部者に対する説明などでは早速利用されており、自然資源の管理や土地利用の検討の他、村おこし活動全般においても活用されはじめている。

なお、当初対象地として予定したサンカンペン郡オンタイ区では、本事業申請以前にも既に2村で活動を行っており、十分な準備に努めたものの、最終的には活動を実施することができなくなったことは、計画変更申請書に書いたとおりである。

〔2011 年度(後期) 活動村の一覧〕

すべてチェンマイ県メーワン郡トゥンピー区

- ① クランドン村 (136 戸、人口 426 人) [活動終了：2012 年 2 月 29 日]
- ② トゥンパカーヌア村 (64 戸、人口 236 人) [活動終了：2012 年 3 月 31 日]
- ③ センカム村 (110 戸、人口 320 人) [活動終了：2012 年 5 月 15 日]
- ④ リムワン村 (113 戸、人口 358 人) [活動終了：2012 年 7 月 12 日]
- ⑤ ノンイェン村 (157 戸、人口 532 人) [活動終了：2012 年 9 月 28 日]
- ⑥ ノンパカー村 (82 戸、人口 264 人) [活動終了：2012 年 12 月 28 日予定]

最後に、申請書の「期待できる社会的な波及効果」に記した「資源消費国家である日本でも環境保全・持続的な社会に関する理解」を得るための講演については、合計 20 ヶ所で 862 人の聴講者を得ることができた。

〔2011 年度(後期) 講演先の一覧〕

◆2012 年 5 月 29 日～6 月 20 日

<関西> ①甲南女子大学(5/29)、②追手門学院大学(5/30)、③神戸大学(5/31)、④北タイハンディ
クラフト展示・販売市[マイチケット](6/3)

<関東> ⑤東京国際大学(6/6)、⑥東北コミュニティセンター[新座市](6/9)、⑦なおのん企画[渋
谷区](6/10)、⑧学習院高等科(6/12)、⑨お茶の水女子大学(6/13)、⑩拓殖大学(6/14)、
⑪武蔵大学(6/18)、⑫早稲田大学(6/19)、⑬駒澤大学(6/20)

参加人数：①98人、②171人、③20人、④15人、⑤12人、⑥11人、⑦16人、⑧9人、⑨9人、
⑩70人、⑪13人、⑫130人、⑬15人【総計 589人】

◆2012年10月10日～10月18日

<関西> ①Cafe Slow Osaka(10/10)、②神戸大学(10/11)、③日本タイ教育文化協会の NPO 法人登
録祝賀会(10/13)

<関東> ④早稲田大学(10/17)、⑤聖心女子大学(10/17)、⑥駒澤大学(10/18)

参加人数：①11人、②24人、③24人、④143人、⑤23人、⑥28人【総計 225人】

◆チェンマイ事務所

チェンマイ・ロングステイ・ライフの会(2012/9/15)【総計 48人】

* ()内の数字は実施した日にち

◆今後の課題

これまでの活動の実績を受けて、助成期間の途中で地域おこし活動の盛んなドイサケット郡
チュンドーイ区から共同事業の申し入れを受けるなど、手法の普及という、より大きな目的
の実現に一步近づきはじめている。

しかしより使いやすい冊子にして住民の利用の便宜を図るため、さらなる内容の見直し
が必要である。この点に関しては、本報告書作成の時点において既にチェンマイ大学の研
究者などの協力を得て、生物情報の収集・表記方法の改善を始めている。また単なるデー
タ集を超えて、これら専門家に得られたデータの分析を依頼し、それぞれの村の環境につ
いてコメントを書いてもらい掲載することも始めている。また、同じく住民による活用を
一層容易にするための、本冊子のマニュアルのさらなる改訂も課題である。

もう一つの大きな課題が、本事業の一層の現地化を進めるための、Link の現地団体であ
る Link 財団の強化、具体的にはタイ人スタッフの増員である。これにはさらに予算の確保
が必要であるが、この実現によって作業の効率化、事業のタイ化を進めていきたい。また、
これも予算不足から実現できなかったが、現地行政機関が導入を進めている最新の地図作
成ソフトである Arc View の導入による情報の互換性の実現も、今後の大きな課題となっ
ている。

これらを通し、最終的には本事業が持続的な地域発展のための手法として、行政による
スタンダードな事業の一部として取り入れられるようになるため、一層の努力を重ねてい
きたい。

以上。